

職場の若い人たちのこと

最近の事例から職場対応を考える

福井産業保健総合支援センター
(公財)松原病院
(医)福井心のクリニック
(医)菜の花こころのクリニック
(株)ストレスサポートセンター

職場の誤解

1. 仕事がうまくいかない人は発達障害
2. 攻撃的な人は発達障害
3. 発達障害は使えない

思春期・青少年の精神疾患

1. 器質性障害：
てんかん、周期性不機嫌症
2. 内因性： 統合失調症圏、感情障害
3. 心因性： 解離性同一性障害、摂食障害
PTSD、依存症
4. 人格障害： 境界性人格障害
5. その他： 家庭生活の諸問題（虐待、養育拒否、崩壊家庭）
行為障害、性同一性障害

発達障害

- 1, 知的障害
- 2, 自閉症スペクトラム障害 (ASD)
アスペルガー障害
- 3, 注意欠如・多動症 (ADHD)

性同一性障害 (vsトランスジェンダー)

- 『出生時に割り当てられた性別とは異なる性の自己意識 (Gender identity、性同一性) を持ち、自らの身体的性別に持続的な違和感を覚える状態』をいう医学的な診断名および状態像。自己意識に一致する性別を求め、時には自らの身体的性別を自己意識のそれに近づけるべく、医療を望むこともある。
- アメリカ精神医学会のDSM-5では「性別違和」、WHOのICD-11では「性別不合」と呼称

LGB vs T

- ・レズビアン・ゲイ・バイセクシュアルは、主として性的指向（どんな性を好きになるか）に関する言葉
- ・トランスジェンダーは性自認についての話
- ・その他 Xジェンダーとは、「(身体的性に関係なく)性自認が男性にも女性にもあてはまらない」セクシュアリティを指す、日本で生まれた言葉

児童青年期疾患分類 ICD10

F7知的障害

F8心理的発達障害

F81学習障害

F84広汎性発達障害－自閉症

アスペルガー障害など

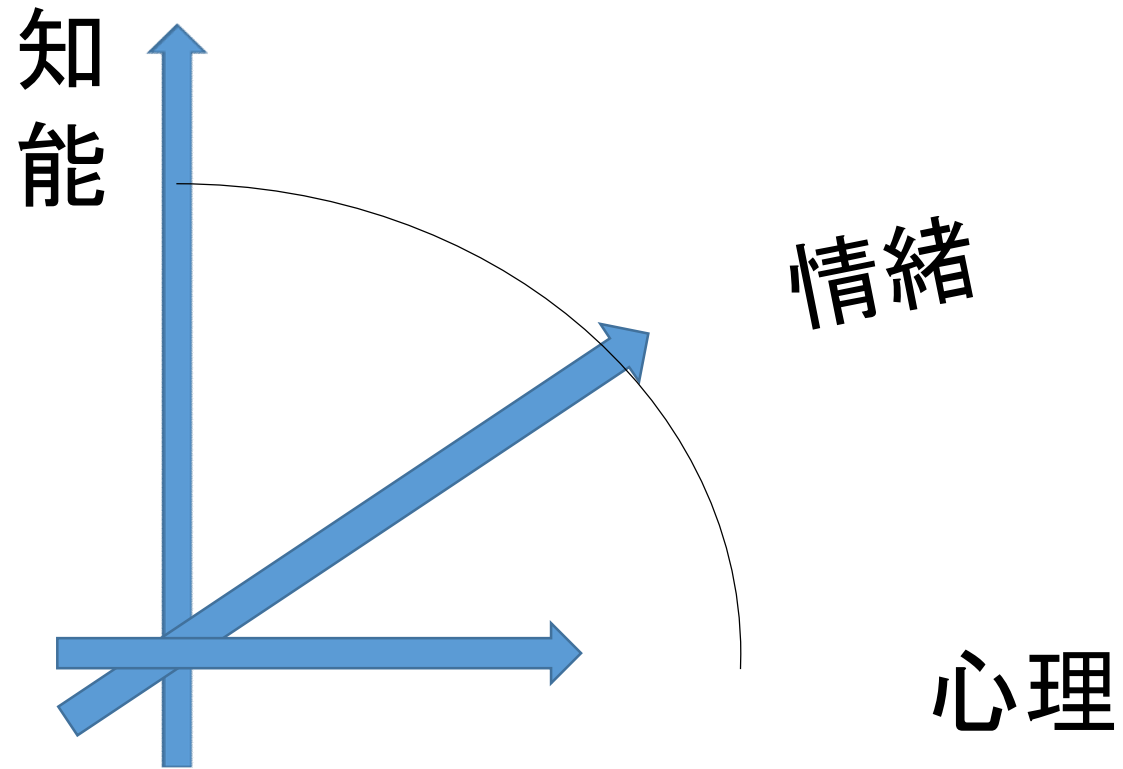
F9小児期および青年期に通常発症する行動

および情緒障害

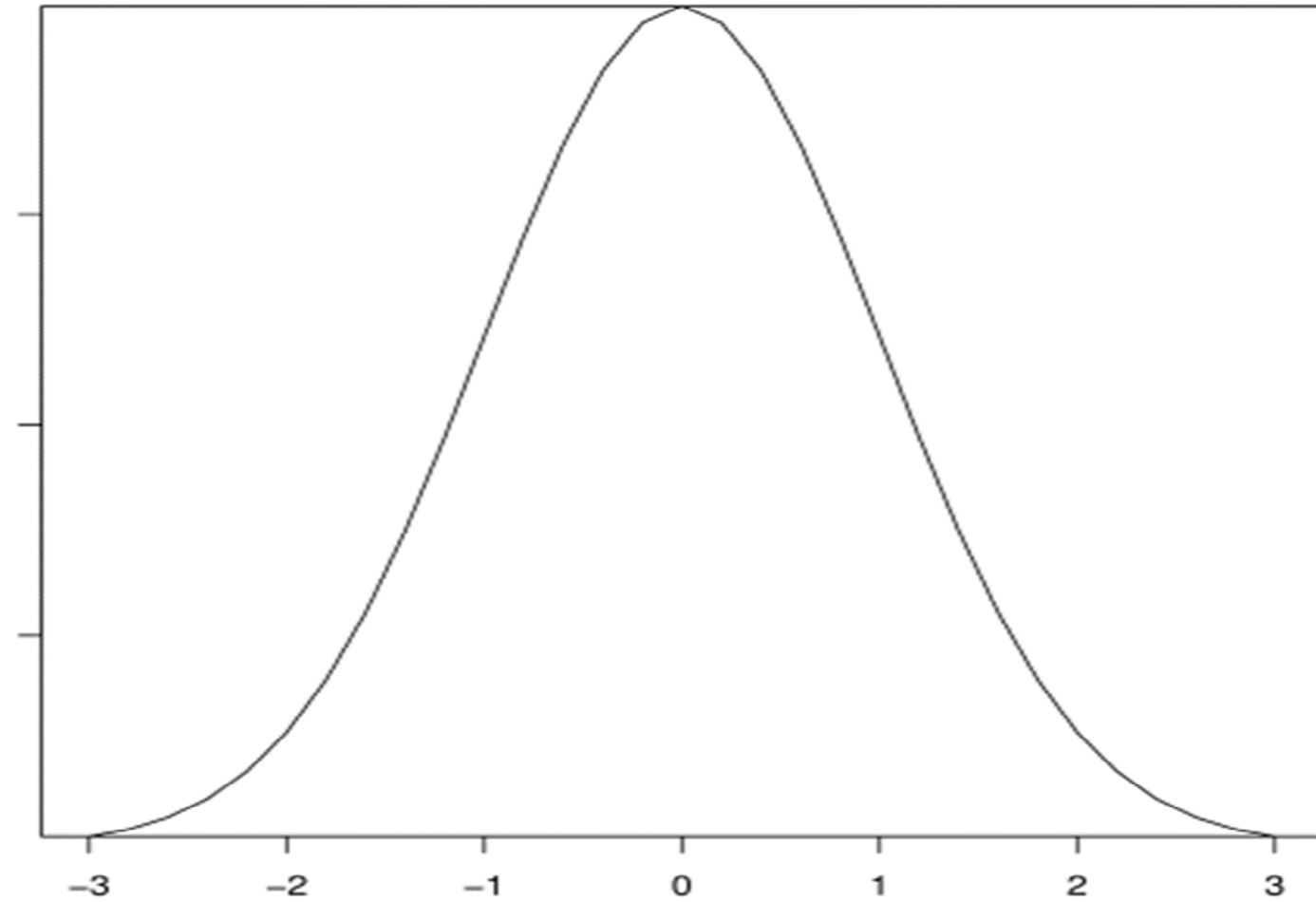
F90多動性障害

F91行為障害

発達とその個人差



正規分布



発達障害の診断名

1. 知的発達
知的発達障害(精神遅滞)
学習障害(LD)
2. 心理発達
自閉症スペクトラム障害(ASD)
社会性コミュニケーション障害
トウレット症候群
3. 情緒発達
注意欠陥多動性障害(ADHD)
4. その他
行為障害
(性同一性障害)

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

注意欠陥多動性障害(AD/HD)

- 不注意
- 多動・多弁
- 衝動的に行動する

学習障害(LD)

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

自閉症スペクトラム障害

1. 人との相互交渉の障害
2. コミュニケーションの障害
3. 想像力の発達の障害

結果として

「狭く硬い反復的な活動や興味のパターン(こだわり)」

大人のASD

1. グループでの業務・活動が苦手

- ・仕事の場面で言えば、ASD の人は一人で黙々と作業をするのは得意な傾向にあるが、チームで業務を行うのが苦手な人
- ・「空気が読めない」と表現される状態。チーム内で孤立してしまったり、周囲と足並みを揃えずに自分が良いと思ったことを独断で行い、他のメンバーを混乱させてしまう。
- ・言葉や図で説明されない限り、本人にはチームがどんな目標のためにどうやって動いているかを理解したり、それを踏まえて自分はどう動けばよいかを理解するのが難しい。結果として周囲からは非協力的な態度だと受け取られてしまいやすくなる。

2. やり取りがうまくかみ合わない

- ・言われたことを独自に解釈して理解のズレが生じたり、わかりにくい表現をして相手にうまく伝わらないことも少なくない。
- ・仕事の上では業務の指示を誤って理解したり、報告や相談をするときに話が分かりづらく支障が出ることがある。
- ・また職場では状況が色々と変化する中でその場で言われたことを理解し適切に返答するといった動的なコミュニケーションが求められる。そのようなスピード感があり、きちんと具体的に説明しないやり取りだと理解が追いつかなかつたり言いたいことをぱっとまとめて伝えられないという人も少なくない。学校では急な変化が少なく自分のペースで落ち着いてやり取りできる静的なコミュニケーションが多いため、学校生活では問題が目立たない。毎日やることが決まっているからである。就職してから急に困りごとが深刻になることがある。

・言葉の使い方以外にも、会話をする中で相手がどんな気持ちでいるか表情などの様子から読み取ったり、読み取った相手の気持ちを踏まえて伝え方を修正することが苦手。そのため例えば怒っている相手に火に油を注ぐようなことを気にせず伝えてしまうといったことが起こる。他にも会話を円滑に進めるために笑顔で応えたり共感の気持ちを態度で示すことがうまくできず、会話をしていても何となくぎくしゃくした雰囲気になってしまう。

3. 自己流で物事を進めたがる

- ・特定の物事を手順通りに行うことに強くこだわることがある。自分の知らない別の方法ではどんな結果になるか想像ができず、恐れや抵抗を強く感じてしまうため。
- ・あらかじめ説明してもらえないと、自分が納得した方法で物事を進められない時には困惑してしまうことがある。
- ・マニュアルや指示の通りに作業をするよう言われていても、自分が気になってしまうと作業を先に進めることができなかったりする。中には指示されていないことも気になってしまい、違う方向に作業してしまう場合もある。このため作業の効率が落ちたり作業が完了できなくなることもあり、職場での評価が下がってしまう。

ADHD（注意欠如・多動症）

- 不注意

物をなくすことや忘れ物が多い、人の話を一定時間集中して聞けないなど

- 衝動性

予測や考えなしに行動してしまう、相手の話を待てないなど

- 多動

じっとしてられない、動き回る、しゃべりすぎるなど

事例

- 20代男性 工場などの職を転々とする

周りの人から「〇〇した方がいいよ」という助言を受けると、「その通りにしなければならない」というような枷になってしまい、負担が増える



負担が増えて、手に負えなくなると退職して、次の職場へと移るということを繰り返した

- リワークで話を聞くと、柔軟性の無さや、ため込み癖などいくつかの課題が見つかる

リワークデイケアでもみられる特徴

- 自身の思考や感情を把握することが難しく、内省的な振り返りを行うことが難しい
- スタッフと話し合って、一見して納得したような返事をされるも、実は理解していないことがある → 誤解が生まれてしまう
- 復職や再就職のタイミングについてスタッフと話し合いはするが、自身のペースや段取りを変えることが難しい

など、職場でも起きていたズレや誤解がリワークでも生じる

- 職場の側は、「どのようなことが負担だったのか」ということや「どのような配慮が必要か」ということを真剣に考えているが、本人は緊張感が高く、その場しのぎ的な対応をしてしまう
- 職場としては、本人が真剣に考えていない、というように誤解
- リワークの、安心できる他者とのやり取り、グループワークを経て、複雑な物事を複雑なままに考えること、他者に対するイメージも複雑な理解ができるようになっていった
- 仕事の段取りについてを自身の課題とし、自宅や職場の整理整頓をしたうえで、スケジュールの立て方について学習し、復職
- 職場訪問も行い、本人との間にズレが起きやすいことを共有した

学習障害(LD)

「学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的要因が直接の原因となるものではない」

1999年 文部省

学習障害(LD)の下位分類

1. 読字障害（4％）
視空間認知、同時処理などの問題
2. 書字表出障害
形態把握、記憶、目と手の協応などの問題
3. 算数障害（1％）
暗算、用語の概念、図形理解などの問題

スクラム福井

福井県にお住まいの発達障がい(自閉症スペクトラム障がい・注意欠陥／多動性障がい・学習障がい等)のある方とそのご家族が安定して地域で生活できるように支援するセンターです。

相談支援、療育支援、就労支援、普及啓発および研修の4つの柱から事業を展開していきます。

地域若者サポートステーション(愛称:「サポステ」)

働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーションプログラムなどによるステップアップ、協力企業への作業体験などにより、就労に向けた支援を行っています。

また、令和2年度より40歳代の無業の方への支援が拡大されました。

「身近に相談できる機関」として、全国の方が利用しやすいよう全ての都道府県に必ず設置しています。(全国177箇所)

サポステは、働くことに踏み出したい方とじっくりと向き合い、本人やご家族の方々だけでは解決が難しい「働き出す力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的にバックアップします。

サポステ福井 地域若者サポートステーション福井

ブランク、つまづき、就活に踏み出せない。

サポステは、そんなあなたに合った

「働く準備運動」ができる場所です

悩みを抱え込まずに、私たちと一緒に考えて行きませんか？

保護者・ご家族からの相談にも応じます。

対象者

サポステ対象者 通学や就業をしていない、義務教育終了後の15歳～39歳
までの若者、またはその保護者・ご家族の方

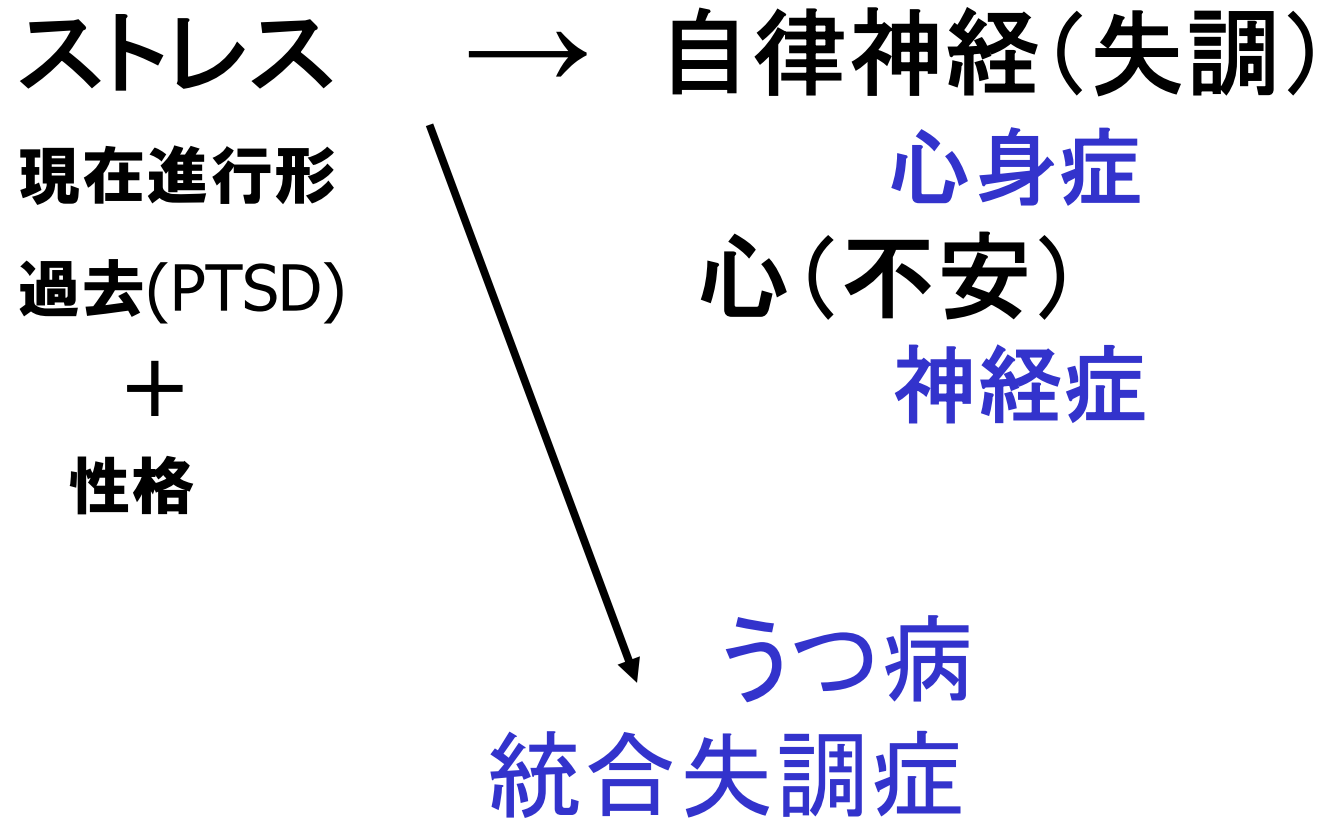
サポステ・プラス対象者 40～49歳で、仕事に就いていない人とそのご家族

サヴァン症候群

イギリスの医師ジョン・ランドン・ダウンは1887年、膨大な量の書籍を1回読んだだけですべて記憶し、さらにそれをすべて逆から読み上げるという、常軌を逸した記憶力を持った男性を報告した。その天才的な能力を持つにもかかわらず、通常の学習能力は普通である彼を idiot savant(賢い白痴)と名付けた。

1. カレンダー計算
2. 映像記憶
3. 書籍、電話帳、円周率
4. 音楽

ストレスの構図



ストレスはどこへ行く

I. 自律神経の失調

心身症 ストレス潰瘍、潰瘍性大腸炎、
円形脱毛症、アトピー、喘息、
免疫機能障害

II. 心の不安

神経症 (こだわり病)
強迫神経症、パニック
中毒乱用、摂食障害

問題行動の内容(症状)

- 引きこもり
- 自殺
- 自傷(リスカ)
- 暴力、殺人(個人、集団)
- ストーカー
- その他 摂食障害(拒食、過食、異食)

強烈なストレスに傷ついたとき

- 比較的正常な反応
逃避、攻撃、心身症
- こだわり(強迫)
- 自傷
急性と慢性
- 解離

解離のメカニズム

期待に答えようとする自分と現実の
解離

挫折という外傷

引きこもるか、解離していくか

人格障害

人格障害

- 人格障害は精神障害か？
- 責任能力はあるか？

人格障害の定義（診断）

- 内的体験や行動の持続的パターンであって、その個人の文化の期待からきわめて大きく逸脱したもの。
 - (1) 認知（例えば、自己、他者、出来事の知覚と解釈の方法）
 - (2) 感情（例えば、感情的反応の範囲、強度、不安定性、適切さなど）
 - (3) 対人的な機能
 - (4) 衝動制御

人格障害の分類

- A、奇妙で風変わりな群
妄想性、分裂病質性、分裂病型
- B、演技的、活動的で不安定な群
反社会性、境界性、演技性、自己愛性
- C、不安におびえている群
回避性、依存性、強迫性、受動攻撃性

人格障害の治療

- 「このような精神療法はわずかな希望を与えるが、成功の保証はない。この問題に対するその他のいろいろなアプローチはもっと期待薄に思われる。」

聞いていただいて
ありがとうございました。

松原六郎

